

著者さんに聞いてみた

「食材を知れば料理の味も一層深まる味わうように本書を読んでください」

い出や苦手な食材を克服した話なども語られ、行間から温かい人柄が感じられる。

気になるあの本この本



辰巳琢郎

撮影・徳山義行

数々の人気ドラマや舞台に出演、最近では、東大生と芸能人が戦うクイズ番組「東大王」などでも活躍して話題を呼んでいる俳優・辰巳琢郎。還暦を迎えた今年、食にまつわるエッセイ集『やつぱり食いしん坊な歳時記』を上梓した。「小学生

の頃から物書きになりたかった」という、食に対する熱い思いが詰まった一冊だ。

*

長寿番組「くいしん坊！万才」（フジテレビ系）の8代目のリポーターとしてもおなじみの辰巳は、放送当

時をこう振り返る。
「毎月6日間、郷土料理を食べまくるハードなロケでした。ただ、この番組に3年間出演したことで食べることが自分の仕事になり、現在の食に関する様々な活動につながっています。多くの人に『食いしん坊』のイメージのおかげで、初めてのお店でも邪険にされませんし、『これ食べて」とサービスされることもあるんですよ」

そんな本書は、大手カード会社の会報誌で14年から4年間にわたって連載した巻頭エッセイをまとめたもの。原稿の執筆は「意外にしんどかった」と明かす。「書くことはもちろんですが、ネタの裏取りが大変です。資料を集めたり、お店に行つて話を聞いたり、電話で取材したりしたこと

もありました。本業もありますから、毎回徹夜で書き上げたのです」

48編からなる本書の中で語られる旬の素材は、キャラベツ、アジなど庶民的なものが中心。「流水とオホーツク海の毛ガニ」の回では、夏だと信じていた毛ガニの旬が4月だと網走の漁師から聞き、実際に食べに行くことを決意する。

「一年中どこにいても好きなものが食べられるようになります。旬へのこだわりがなくなりつつあります。それは本当に幸せなことなのですが、という思いが常にあります」

（木下真之）



やつぱり食いしん坊な歳時記
辰巳琢郎・著
1512円
集英社

「空腹感があるから、食事のありがたみを感じながら食べるることができます。さらに食材の产地、地理、歴史などに思いを馳せながら食べると、料理の味わいも一層深まるんです」

現在は「観光庁アドバイザー」の肩書きを持ち、食に関するメッセージを発信し続ける。最後にこう話してくれた。

「食と思い出は人それぞれ違うもので、自分自身の人生が反映されるものだと思います。おいしい食事を味わうように、じっくりかみしめながら本書を読んでいただけたらうれしいです」

たつみ・たくろう 58年大阪市生まれ。京都大学文学部在学中から劇団を主宰し、卒業と同時にNHK朝の連続テレビ小説「ロマンス」で全国デビュー。その後、ドラマや舞台に多数出演。11月13日～16日まで、東京・三越劇場で開催される舞台、ロマンティックコメディ「さよならチャーリー」に出演する。